



Title	大阪に学ぶ
Author(s)	杉山, 太幹
Citation	大阪公衆衛生. 1980, 42, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84052
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大 阪 に 学 ぶ

私は、昨年12月厚生省の地域保健課長から大阪府の衛生部長に着任いたしました。私は、一時期島根県に勤務した経験がありますが、元来が関東生れの関東育ちであるために、大阪を中心とする関西の公衆衛生行政を経験するのは始めてです。今までにも耳で聞き、文献で読んで、多少の知識は持っていたつもりですが、実際に自分の体験として日常業務に従事してみると、今までの知識とは違った感触があります。

日曜日など暇をみては、過去の記録や記念誌などに目を通しております。古文書とは言えないまでも、これらの書物から得られる大阪の公衆衛生の歴史は、直接、大阪府に勤務の場を得た現在では、当然のことながら、より身近で膚で理解しうる事柄も多く、かねてから全国でも注目される多くの公衆衛生の先駆的諸事業が、何故に大阪で生れ育ってきたのかということが私なりに理解出来つつあります。このような理解は、大阪の歴史と伝統を自らの体質として受けついでいる大阪の方々よりも、私のように外からやってきた者の方がより鮮明で、正確であるとも言えましょう。また、感激も新鮮であります。このような、理解やそれに伴う感激は、適塾のように巷間良く知られている事実の記載を読んだ時よりも、小さな事実でもそこにユニークな大阪らしさと、歴史と伝統の旧さを知った時にひとしお大きなものがあります。

例えば、大阪府警察史第2巻によると、明治10年に、「鋼折、鍛冶、湯屋」の三業に対する取締条例が施行されています。その中にこれら三業の営業については、「周囲に空地を設けることとし、周辺住民の承諾を得ること」となっており、この条例が明治13年に改正され、その改正文中に「公害」という言葉がすでに用いられていた事実などがあります。世界中が、「環境汚染」という言葉で呼んでいる事柄を日本では、「公害」と名付けている由来は、どうもこのあたりにあるのはなかろうかとも思えるのです。

また、条件付けではあっても公害発生に対し地域住民のコンセンサスを得なければならないと規定されていることなどは、大阪人の持っている本来的な公衆衛生的センスとも言えるのだろうかと考えたりしております。

また、金子準二編著の、「日本精神医療年表」によると、安土桃山時代の1599年に、「本多左内が泉州南部七山の地に爽神堂を創設し精神病者の施療を始めた。」とあり、このような小さな事例の中に、大阪の文化と歴史の長ささと伝統を読みとることが出来ます。このような中で大阪の公衆衛生のユニークな活動が生れ育ったのだと私なりに実感を持って理解することが出来るという訳です。

衛生部長に着任して、まだ半年にもなりません、その間の短い経験を通してみても現実の問題としては、大阪には大阪の事情に則して考え解決しなければならない課題が数多くあるように思われます。これらの課題を、一つ一つ具体的に、「大阪らしく」解決をしなければならないと考えております。

そのためには、私自身が、一日も早く、文化と伝統の中で育たれた皆様方大阪の公衆衛生マンに同化し、大阪公衆衛生の推進のために微力を尽さねばならないと肝に銘じて努力をしている今日此頃です。

(大阪府衛生部長)